

山梨県総合計画審議会第1回教育文化部会 会議録

1 日 時 平成21年1月27日（火） 午前10時～正午

2 場 所 ホテル談露館「アンバー」

3 出席者

・ 委 員（50音順、敬称略）

飯窪 さかえ	池田 政子	上名 をさみ	窪内 節子	桜林 俊一
佐野 好子	鶴田 一杏	鳥海 順子	萩原 公子	深沢 修
深澤 光江	保坂 精治	保坂 智子	堀内 直美	

・ 県 側

知事政策局次長 企画部長 県民室長 教育長
（事務局：知事政策局） 政策参事 政策主幹

4 傍聴者等の数 2人

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 知事政策局次長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 会議に付した議題（すべて公開）

- (1) 各分野の今後の主な施策について
- (2) その他

7 議事の概要

- (1) 各分野の今後の主な施策について

事務局から資料1の当部会の担当事務について、また、教育長、県民室長から資料2の「Ⅲはぐくむ・やまなし」の4事業について説明したあと、次のとおり意見交換を行った。

(委員)

是非、人を育てるということを中心に考え、強化していただきたい。

「生きる力をはぐくむ縦の接続」のところだが、授業の面、いろいろな活動の面で、校種にかかわらずそれぞれの学校間で連携していただいているが、就学前、幼稚園、保育所、小学校、そして中学校と、それぞれ連携がとれる場と機会を拡充していただきたいと思う。

人の心を育てるときに、山梨県は産業と連携するという話が出ている。山梨県は農

業の面で非常に充実している県であるが、一方で後継者不足なので、学校教育でうまく取り入れていただけるといいと思う。小さい子どもの頃から草花や果物等を育てる中で、生きる力をはぐくめる、そして、山梨県の特徴が出せるのではないかと思う。

県立文化館を具体的にどう学校教育の中に取り入れていくのかが、今後、試されるのではないか。文化財などを積極的に学校教育に取り入れられるような方法、文学館まで遠い学校への手当やパソコン等の利用の検討や、十分に学校で検討できる財源の確保をしていただきたい。

中高一貫教育については、まだ検討継続とのことだが、その辺りについて、情報があつたら、お聞きしたい。

国民文化祭の関係だが、山梨県は非常に珍しいお祭り、芸能が残っている。それについても、後継者が育っていないので、山梨県の各地にある芸能を一挙に開催して見られるようなプログラムがあればいいと思う。また、学校の中でも、後継者を育てるような取り組みが始まるといい。

(委員)

高等学校整備構想だが、生徒の減少、多様化が進んでいるので、高等学校の整備構想は非常に重要な意味を持っている。中学生、小学生がどう将来の目標を持って進むか、目的を持たせてあげるといふ役割もあると思うので、高等学校だけの問題ではなく、非常に重要である。

国民文化祭だが、高等学校としても国民文化祭に向けて最大限の協力をさせていただきたいと思っている。

(議長)

事務局から意見があつたら承りますが。

(教育長)

知事も人づくりを県政の基本に据え、子どもは未来からの預かりものということで、一人一人の個性を大事にしながら、ふるさとを愛し、世界に通じる人づくりを進めていくとしている。県教育委員会としても、国の動向、改革の動向を見極める中で、山梨の未来を担い、世界に羽ばたく子どもたちの育成に、力をいれていきたいと思う。

縦の接続の話だが、それぞれの学校段階でとどまっていた教育内容をしっかりつなげていきたい。基本的には、それぞれの学校段階での教育を充実していかなければならない。そうしながら、幼保小、小中、中高、高大という接続をしっかりしていかなければならない。この流れの中にキャリア教育があり、小学校の早い段階から、学ぶ意義や働く意義、将来どう生きていくのか、将来何の職業に就くのかなど、いろいろな体験をさせていく中で、自分自身をしっかり把握しながら、社会に自立していければいい。そういう一貫した体系をつくっていきたい。

横の連携だが、学校だけで人間を育成することはできない。家庭、地域、民間の企業等も含めて、学校に協力をしていただきながら、子どもを育てていくことが大事だと思っている。

農業高校に学んでいる生徒の大部分が農業後継者であればいいが、実はそうではない。これからの農業がどう発展していくか、経営的な視点も含めて農業教育というも

のを見直していかなければならない。そういう中で、後継者を育てていくことが必要だと思う。

全県一区の入試になり、高校が中学へ出掛けて、自分の学校の良さを一生懸命説明することにより、農業や工業などの専門教育を見直していただき、希望者も増えているのではないかと考えている。

(県民室長)

国民文化祭について、山梨県の歴史的文化遺産や伝統工芸、地場産業、食文化などを取り入れて、幅広く掘り起こす中で国民文化祭を展開していきたいという基本的な考えがある。

検討委員会でも、従来の芸能等の話題も出ているので、そういう面も取り込んでいく必要があると感じている。

山梨県の特色という部分であれば、富士山、ワイン、ジュエリーなども踏まえる中で、多くの人に来ていただき、全国に発信していくことも考えていきたい。

(委員)

2、3質問をさせていただきたい。知識基盤社会をどう捉えているのかということが一点。総合計画以外に、今作成している最中である山梨県の教育振興基本計画、平成16年のやまなしの教育基本計画、この三つはどのような位置付けなのか。また、学校応援団はどういうものなのかについてお聞きしたい。

小中の連携は非常に重要であると思っているが、山梨県は不登校率が全国でワーストワンになってしまった。中学校での不登校は、段階的に中1、中2、中3と多くなっていくが、急に増加するのが中学校1年生。小学校と中学校の連携、接続がうまくいっていないとよく言われるが、縦の接続を重視していくことは非常に重要だと思うので、是非、強力に進めていただきたい。

横の連携について、学校、家庭、地域の三者が連携することは、非常に重要であると思うが、ネックになっていることがある。それは、先生が忙しくて、子どもと向き合う時間が確保できないこと。子どもと向き合う時間が確保できないのだから、その先にある家庭と地域と連携するにも時間が確保できない。小学校の先生と中学校の先生が話し合いをしていかなければならないので、やはり時間が必要。縦の接続、横の連携を重視して、強力に進めていただきたいが、その前提として子どもたちと向き合う時間の確保、さらには家庭と地域と連携するための時間の確保なども考えていただきたい。

(教育長)

知識、情報、技術が政治経済文化を始め、社会のあらゆる活動の基盤として飛躍的に重要性が増す社会、これを一般的に知識基盤社会と言っている。

計画の位置付けだが、基本になるものは山梨県全体での総合計画「チャレンジやまなし行動計画」、その教育部門を担っているのが「やまなしの教育基本計画」や、「教育振興基本計画」。国の「教育振興基本計画」が出され、これを参酌する中で、それぞれの県で基本計画を作成するようにとの要請もあるので、「やまなしの教育基本計画」に代わるものとして「教育振興基本計画」を策定させていただくということ。

学校応援団というのは、文字どおり学校を応援する仕組み。文部科学省の学校支援地域本部という事業に相当する。家庭、地域、民間の企業、それぞれの関係機関が総ぐるみで子どもに対応していくというもの。

学校を応援する地域の人々のネットワークをつくることで地域がもっと活性化するのではないかと、地域の教育力が再生するのではないかとということも期待している。教職員の忙しさを少しでも解消すれば、もっと先生たちが子どもと向き合う時間をつくれるのではないかとということも狙いにしている。

不登校は、小学校からのいろいろなつまずきや人間関係の問題があって、中学校に行って出てくるということ。小学校は学級担任制、中学校は教科担任制という違いや評価の違いもあり、また、いろいろな小学校から生徒が集まってくるという状況の中で、不登校が増えているので、小学校と中学校がもっと連携していくことが必要。さらに中学校、高校も連携を深めていくことが必要であり、縦の接続と横の連携が今後の教育のキーワードだと思っている。

(委員)

山梨県の不登校の発生率は全国一。なぜ、そういう事情になったかだが、山梨県は非常に住民の流動性が低いところであり、子どもの頃に、その子に対する評価がつくとそれが小中高と続いていく。山梨県は40歳以上の人にとってはとても住みやすい所であるが、若い人にとってみれば、閉塞感のある地域だと感じる。子どもたちも狭い世界で生きていくことに慣れる。だから、小学校という狭い世界で生きてきた子どもが中学校の広い世界に入り、うまくなじめない部分が出てくるのではないかと思う。

それに対応するには、子どもたちはどんどん変わっていく、新しい経験により変わるんだという感覚を、学校の先生、地域のリーダーなどの指導者に身につけてもらうことが重要だと思う。

確かに連携は重要だが、その連携の中に悪い評価が含まれているとすれば、子どもたちにとっては非常に閉塞的になる。やはり自分が生きていくうえでの努力、あるいは自分の意思で、どんどん世界が広がるということが、子どもたちの心に伝わればいいと思う。今現在、山梨県出身で活躍している人に協力してもらい、広い世界があるという雰囲気は県全体に広がっていき、夢が与えられればとてもいいと思う。

また、かなり貧しい人がいる。貧しい中でも能力があれば、自分の力で伸びていけるという夢を与えられる、例えば奨学金や何か夢につながるものやっていくことも必要だと思う。

35人学級について、気になることは35人だと男子と女子それぞれは17人ぐらいになる。17人だとグループは二つか三つぐらいになる。より多くの人間の中で切磋琢磨して、人間関係能力を育成していくことも必要ではないかと思う。

先生が忙しいというのは本当だと思う。それは何かをやると必ず本など形に残るものをつくる。だから、ハードよりもソフトの面、内容を充実させることによって、先生方に余裕ができるのではないかと思う。

(委員)

地域や家庭の協力が少なくなっていることは何年も前から言われていて、PTAでもどうしたらいいかということは何年も協議しながら、いろいろなことにチャレンジし

ている。地域、学校、家庭、総ぐるみで子どもを育てるという横の連携が大事だというのは皆分かっている。ただ、どのようにすればいいのかということが、よく分かっていない部分がある。県で、具体的に事業をやっているのであれば、お聞きしたい。

(教育長)

学校応援団の仕組みだと思うが、いくつかのモデル地域を設けながら学校応援団の事業を行っている。学校の考え方と地域ができることが一致しないとうまくいかないで、この間を取り持つコーディネーターが二つをつなげながら事業を行っている。

(委員)

体力テストの結果が大きく低下していると新聞に出ていたが大変な課題だと思う。

例えば、総合型地域スポーツクラブを設立するように活動しているが、そこで運動できるのは、ある程度限定された子どもたち。底辺を広げるという点ではとても難しい。そういう意味で、手っ取り早く子どもの体力を向上させることができるのは学校ではないかと思うが、学校で体力づくりを課題としているところが随分少ない気がする。

また、教員がものすごく忙しいということは現実。体力づくりだけしているわけにはいかない。一方で、学力調査をすると、山梨の学力が低下しているので、きちんと基礎・基本を教えて、子どもたちが楽しく分かる授業をしていかなければならないということになり、課題は山積している。

体をつくることと学力向上はイコールになっていく面が多いと思う。毎日の積み重ねが大事だと思うので、体力づくりの課題を学校で解決するための計画を策定して動いていただければいいと思う。

不登校の問題だが、先日、「さわやかキッズラグビー教室」が元教員を中心にしたラグビー愛好者でつくられて、不登校の子どもたちに参加を呼びかけているという新聞記事があった。地域の中で子どもたちが外へ出ていく雰囲気をつくってあげられるグループが増えてきたら、もっといいと思う。それらのグループが出てきたときに、県や市でどのような援助をするのか、ハードでもソフトでもいいので応援をしていただけるという機運があれば全体的に盛り上がってくると感じた。

新しく学習指導要領が出たが、教員の質の向上が第一に大事だと思っている。基礎・基本をきちんと教えて子どもたちが満足し、ものが分かることの喜びを感じる授業をするというのは、教員の指導力に随分かかっていることなので、その点についても配慮をお願いしたい。

(委員)

この構想に書いてあることを実現していただければもう十分結構であって、これがないからどうするかという話。皆さん教育にしても文化にしても、こうなったらいいというのが頭にある。それが実現ができないので、悩んでいるのだと思う。

学校も知識を詰め込むのはもういっぱいだと思う。そこでどうすればいいのかというのが問題。「ものづくり」という立場から考えると、地域や産業と連携させて、もう少し手を使うということが重要だと思う。教育というのは、「共育」「ともに育する」ということだと思う。教育は学校というイメージは崩れていると思うが、今までは、

地域などと学校とのコーディネートがされてなかったと思う。

知識が必要ということはそのとおりだが、今、忘れられているのは、ものづくりのこと。例えば、農業はものすごい技術がある。そういう中からいろいろなものが学べると思う。

言いたいことは、知識のどこに重点を置くかということ。手を使わせるということは、今はほとんどされていない。経験上から言うと、頭脳の半分は手だと思っている。やはり頭脳の中で考えるということと、手で考えることの両方をマッチさせていくことが必要ではないかと思う。

知識は、いくら詰め込んでも創造性は出てこない。知識をいくら積んでも、新しいものはつくり出せない。やはりつくり出すにはあと一つ何かがある。そこが必要ではないかと。

(議長)

ありがとうございました。非常に視点を変えた部分もあり、素晴らしいご提言をいただいた。時間もあまりないので、教育長さんに一括でお話をいただきたいと思う。

(教育長)

学力向上にしても、体力向上にしても、生活習慣や学習習慣をきちんとさせることが基本にあるのではないかと思う。

教員の質の向上だが、教員の評価制度が実質的に動いている。お互いの授業を見合って、評価し、改善していくという流れができあがっている。こういうことを積み上げていきたいと思っている。

手を使う、手で考えるというお話をいただいた。理解をすることと、活用して、実践することの両方をしっかりやっつけていかなければならないと思っている。地域の人材を活用しながら、どういうものを学校教育に活かしていくかということも大きな課題だと思うので、しっかり考えていきたいと思う。

(委員)

一番大事なのは、家庭の環境。家庭で子どもをしっかりと教育していくことが非常に大事だと思う。

先日、成人式の出席者がテレビに出ているのを見て、若者は割合と理想が低い、もっと高い理想を持っていいのではないかと思った。学校によって生徒の考え方が違うのかなという気がした。そういうしっかりした学校の教育を受けさせるということもあるだろうが、一番大事なのは家庭で子どもをしつけることだと思う。

自分たちは、あまり子どもには構わずにきたが、きちっと歩いていく姿を見て、子どもはあまり手を貸さなくても、親の姿勢を見ているという思いをかなり強く持った。

(委員)

今日の教育文化部会で、説明を受けたあと、いろいろな意見を交わしたが、これから効果的にそれぞれの委員の意見を集約するためには、こういう機会だけでなく、それぞれ持っている意見を、事務局に提出させていただくことをお許しいただきたい。

(2) その他

事務局から今後の審議日程について説明し、了承を得た。